

## 95 私にとっての「教育協働セミナー」とは？2年半を振り返る！

堂本 彰夫

### (1) 本当に救われた？この2年半？!

2019年4月から始まった「教育協働セミナー」！振り返れば、もう(まだ?)2年半となる！多分?年老いていく(しょぼくれている?)私の惨状?を見かねた、一人の卒業生S君(当時、H教育大学の准教授)の優しさと思いきや、それを実現させてくれたわけであるが、そこに顔を見せてくれている、全国各地(まだまだ幾つかの地域ではあるが!)の参加者(元教育長とか学校長、一般の教員や行政職員、さらにはNPO等の職員、もちろん一部のゼミ卒業生も)の思いとか、彼らの実践内容を聞くにつけ、まだまだ自分の役割は、あるのかもしれないというような気持ちにさせてくれてもいる！とにかく、元気をなくしていた、一人の元大学教員として、今、ここ沖縄の地でこんな形で生きていられることは、本当に望外の幸せだというように思っている！そして、これは、かの私の「自由大学?構想(これまで、何度も頓挫したが?)の顕現なのではないかとさえ、思わせてくれている?!

要するに、そうした人々との交流、そしてそこにある思いの共有は、私にとっては、何か新鮮な気持ちにさせてくれているということであるが、冷静に捉えれば、ようやく、私の言う「教育協働」を必要とする状況が、教育界、否、現場実践者の行動や意識に蠢き始めているということかもしれない(尤も、単純に、私が知らなかった?私の周りに、そういう人がいなかった?ということかもしれない?)?!全国的には、こうした意識(レベル)の高い人が、いることはいるのだなあと、一方で思いつつ(ある意味驚き?)、こんな理解者・協力者が、身近に、もっと多くいてくれたらなあ(どこかの県のことを思いながら?)、改めて思っているわけでもある?!

ちなみに、これに関しては、先に始めていた「教育協働への道」という論稿(雑文)作成(HP上へのアップ)が、それと連動した形で進められてきたということであり、「教育協働」の意味づけと、その具体的な姿・形について、それ以降、その展望を考えさせてくれたのが、このセミナーだということでもあるが、「やっ、という時代が来たか!」という思いと、「私が言ってきたことは、間違いではなかった?!」という思いが、半ば交錯しながら、惜しむらくは、「もう少し早く、そうした事態を迎えたかった!」、「今の私には、少々(かなり?)遅すぎる!」、そうした思いも、あるにはあったということである!私のフィールドは、既に、時代の向こう側に行ってしまうのではないかとということであるが、まあ、それも、ある種の定め(運命)だったのであろうし、そのことを、今さら悔やんでも始まらない!ましてや、誰も喜ばない?!

ということで、後は、どれだけやれるかは、「神のみぞ知る?」ということになるだろうが、自らの思いと、そして体力?の続く限り、さらには、こんな私と一緒にやってもいいという人がいる限り、頑張ってみる他ないであろう?!今般のコロナ禍(災害?)によって、俄かに脚光を浴びてきた「オンライン〇〇」「リモート〇〇」、あるいは「テレワーク」といった、新しいコミュニケーションの方法とか、仕事の仕方(会議・交流等)とかであるが、たとえそれが、ある意味仕方がなかったから?というような動機・きっかけであったとしても、意義・可能性は甚だ大きく、その威力・効力?については、素直に認めなければいけない!以前の私であれば、このようなことは、ほとんど(まったく?)口にしなかったであろうが、そのことを思えば、何とも複雑な思いではある?!しかし、今は(これから?)、このことは、声を大にして言わなければならない!

### (2) 私の「自由大学?」構想の、一つの形となった(なりつつある?)「教育協働セミナー」?!

ところで、私は、上記の「自由大学?構想」について、もう随分前であるが、次のようなことを書いている!…そうした「自由」の発現の場として、「大学」がある、否「あった」というべきか?!もちろん、それは「学問の自由」であり、それを実現するための「大学の自治」である。その使命は、「真理」の探求である。ただし、現在、「何における真理の探求か?」がおろそかになってはいないか!「真理」とは、単なる正義や事実ではなく、そこにある「生きるということの意味」である。したがって、その「リアリティ」の中で、それを「解釈」し、その意味を自ら「共感」できるということが、「学問の自由」なのである。そしてそれは、若い人、次世代のためだけのものではない。そこに、本来の意味での「生涯学習」の要請があるのである。ならば、これまでの正規の大学とは違った(精神としては、それへの反発ないしは真の学問への憧れ?!)、個々人自らが自由な発想と関わりの中で、上に挙げたような学びの場を創出することが必要となる。そこには、固定された建物、敷地、あるいは法律等は無用である。だからこそ、「自由大学」なのである。ちなみに、歴史的には、北欧、特にデンマーク発祥の「市民大学」(グルントヴィ<sup>※</sup>創設)があり、我が国では大正末期から昭和初期にかけて、長野県を中心に起こった「自由大学」運動がある(土田杏村の「信濃自由大学」はつとに有名)、近年では、福岡県宗像市の「むなかた自由大学」等、が挙げられる。しかし、本「おきなわ自由大学」は、それらに思想上の影響を受けているが、決して模倣や継承を意図するものではない。とはいえ、そこに流れる学びの思想は、国を超え、時代を超えても変わらないはずである。

※NFS.グルントヴィ(1783年-1872年)は、デンマークの牧師、作家、詩人、哲学者、教育者で、また政治家。フォルケホイスコーレ(国民大学。ドイツではVolkshochschuleと称される)の生みの親。「意志のある手が、光の御業を為すのである。それ故、自由、協同、そして発見の精神が、個人、科学、そして全体としての市民社会の中で燃えたとされなくてはならない。どこかで、こういうことが紹介されていた!

改めて読めば、かなりの面映ゆさもあるが(もちろん、若気の至りを痛感もするが!)、私の「教育協働への道」

づくりは、諦めたわけでは決してないのであり、これからも続くのである?!この間、なかなか納得のいかないものを、どこかで引きずってきたようにも思うが、やはり、続けてきてよかったのである!そして、このことは、根源的なところでは、教育行政(広げて言えば「教育経営」。「マネジメント」という表現でもよい!)の専門家養成を、「大学でやらない、やれないのであれば、自分達でやるしかない?!」「その方が、意味もある?!」、そういうことにつながっていくのである?!

そこで、私が考えてきたのは、教育に関わる何らかの仕事や活動を継続的に、しかも、それで収入(身分も?)を得ている人(本当は、教員や行政職員であって欲しいが!)が、単に職務・活動の一環として、嫌々ながら、あるいは荷が重いというようなことではなく、「しくみとして」、そういう人達の「専門性や情報の結集」が必要なのではないか、そして、そうしたしくみづくりは、自分達でもやれるのではないか、そういうことであつた!つなげて言うと、今現在、この「セミナー」をきっかけとして、県外との交流、県内での交流、この二つの交流が、新たなネットワークの輪を創り、その成果を広げるものとして、大いに期待できるようになっているということである!やりようによっては、大きな発展も、決して夢ではなくなっているということである?!

### (3) 教育協働プロモーション(PEC: Promotion for Educational Collaboration) という名のセミナー?!

すなわち、結局は、思いをもった人間、自覚(覚醒?)した人間が、相当な四苦八苦をしながらも、何とか解決していくほかないのである?!しかも、それは、極端に言えば、どこの、誰であってもよいのである?!もちろん、それで飯を食っている人、一応そのための職や地位を得ている人であれば、それに越したことはないが、実際には、そうも言っておられないのである?!他ならぬ、教育(当然社会教育も含めた!)の世界は、然りである?!したがって、そんな現実?の中、その教育の世界において、「生涯学習体系への移行」「三層構造の再編」「ひとづくりとまちづくりの循環づくり」「総合行政化」「地域教育経営」「学社融合から教育協働へ」等々、様々な概念・キーワードを持ち込んだとしても、ただそれだけでは、なかなか事態は進展しないのである?!

要は、そこに「協働」が必要であり、それが人々を救う?ということである?!いみじくも今、「地域学校協働活動」とか「市民協働のまちづくり」とかが叫ばれているが、これらはまさに、こうした「協働」の動きと軌を一にするものなのである?!もう30年以上前の話になるが、東京・国社研時代に、当時の社会教育主事講習の目玉授業の一つであつた、HG氏の「レクリエーションの理論と実際」の時に教えていただいた、「人は何故生きる?!→「幸せ」を求めて?!→「幸せ」とは何か?!→健康・財・仲間(愛)！」が、頗る懐かしく思い出される!つまり、この最後の「幸せの三要素?!」が、改めてこれからの我々の人生・日々の生活に、様々な影響・結果をもたらすということであるが、とりわけ、それ自体は個人の思い・力だけではどうしようもない、「仲間(愛)→絆?」の発見と創出は、これからの「教育」「地域(コミュニティ)づくり」の双方において、必要不可欠となる?!これは、今も、昔も変わらない?!

そこで重要となってくるのが、改めて、「地域教育経営」→「ひとづくりとまちづくりの循環づくり」の必要性であり、そこにおける「学社融合」→「教育協働」なのである!だが、繰り返すように、その必要性を、ただ単に声高に主張するだけでは、まったく事態は進展しない?!そこに求められるのが、それらを促進させる「教育協働プロモーション」(PEC)の機能であり、それを実現、遂行していく人々(促進者:プロモーター)の存在である!しかし、それは、ある特定の人達である必要はない!しかも、職種や年齢、さらにはキャリアの有無も、基本的には関係はない?!必要なのは、それぞれの思いであり、行動のパースペクティブ(将来展望)だけである!ただし、問題は、どのようにして、現実(にそれにコミットメント(参画)し、それぞれの人生・生活の一環として、そこに必要な行動やしくみを創り出していけるかである!

それを始める人のことを「始動者」とすれば、そうした人々の動き(機能や役割)は、改めて「教育協働プロモーション」(PEC)と言えらるであろうし、彼らは、「教育協働プロモーター」ということになるわけである!とにかく、こうした「教育協働プロモーター」が、各地・各様に生まれ、成長・増殖?し、それぞれの思いや実績を重ねるとともに、必要なネットワークを拡大させていくことが出来れば、深刻な我が国社会の未来を、何とか切り開いていくことができるのではないか?!そんなことを、改めて思う(期待する!)私でもあるわけである?!そして、実はこれが、私の、沖縄での、あるいは沖縄からの「最後の発信」なのでもある?!

まだまだ、その未来?の明るさについては、何とも言えない部分もあるが、私の、最後のチャレンジ?として、今、一つの形(→「教育協働セミナー」)が出来上がっているのではないかということであり、そして、方途としては、それしかない?あるいは、それが今、曲がりなりにも、私にでも出来るということではあるが、結果として、現在(これから?)の私を、大いに救ってくれている?そういうことでもあるわけである!

ということで、以上ほとんどが、これまでに書いた論稿の関係部分の寄せ集めとなつたが、最後に、別の卒業生(修士課程)が、私の退職時に、過去の私の短歌から目ざとく?拾い上げ、記念色紙に書いてくれた下記の短歌二首を揚げておきたい!まさに私は、そういう思いで生きてきた、否、はずである?!

教育は すべて 人と人との出会いから その出会いの妙が 人生創る  
託す夢 そこに在りしは 自由大学 信じたくは 人の情けと交流の輪